

# 街路樹

## 次期学習指導要領へ向けて



## 「道徳教育」を全職員で考えよう



先日、次期学習指導要領改訂に携わっている文部科学省初等中等教育局教育課程課長の合田哲雄氏の講話を聴く機会があり、次の内容が印象に残りました。

「今の小学生の65%は、社会に出たときに、現在ない職業に就く」と言われている。社会構造の急速な変化により、今後10年、20年先と予測できない社会の中で、単純にどのような分野でどれだけ知識をもった人材を増やせばよいというマンパワーポリシーが通用しない時代になってきた。先が見通せない時代になっており、だからこそ、どのような状況に対しても対応できる汎用的な能力が求められるようになってきた。これからの社会を創り上げていく子どもたちにとって、ただできるようになるのではなく、身につけた技術を状況に応じて応用して活用する力が重要となる。つまり、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視される。いわゆるアクティブ・ラーニングを前面に打ち出し、教員には授業改善の意識を強くもってもらわなければならない。

研修での模擬授業や学校訪問において、先生方のもっている「引き出し」を効果的に使って、子どもたちに主体的・協働的な学びを実現させている素晴らしい授業を見ることができます。しかし、その反面、「いきなり『はい、今日は教科書〇〇ページをやります』『はい、今日の課題は〇〇です』で始まる押し付け的な課題提示」「『わかりましたか?』『はい、わかりました』などの教え込みの受け答え」「説明書(実験方法)を見ながらの作業的な実験・・・というような授業に出合うこともあり、授業における教師の意識改革の必要性を感じてしまいます。

次期学習指導要領改訂に関する今後のスケジュールを見ると、今年度中に、次期学習指導要領の方向性について中央教育審議会の答申が出される予定です。平成32年(小学校)、平成33年(中学校)の次期学習指導要領完全実施に向けて、国の動向を注視しながら、今から、その下地づくりをしていく必要があると考えます。



## 研修講座の様子から

### ICT活用講座①(PowerPoint活用)

<6月30日実施>

今年度、久々の開催となったこちらの講座には、14名の先生方にご参加いただきました。学校よりも一足早く導入されているタブレットPCを使用し、PowerPointの基本操作や授業等における活用のアイデア、作成にあたってのポイントなどを講義と演習を通して学び、最後には実際のスライド作成にも挑戦してもらいました。以下は参加した先生方の感想です。

- ☆ より早く、分かりやすく作成するコツをつかむことができた。
- ☆ これまで知らなかった便利な機能を学ぶことができて有意義だった。
- ☆ 短時間で数多くの演習をこなし、達成感を感じる事ができた。

なお、当日の様子(画像)や使用した演習用データは、総合教育センターのHPで確認することが可能です。



学習指導要領が一部改正され、平成27年7月に学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)が作成・公表されて、もう一年がたちました。小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から検定教科書を導入しての『特別の教科 道徳』(道徳科)が実施されます。

現在、皆さんの学校では、その準備としてどのような取組をしているのでしょうか。

もうすでに、改正学習指導要領の趣旨を踏まえて教育課程を編成したり、全体計画を見直したり、指導の改善を図っている学校もあることと思います。

『道徳科』の実施に向けて、今年度中に全教職員での話し合いをもち、次のことの再確認をお願いします。

### ①学校の道徳教育の目標を明確にすること

総則に示されている目標を基に関係法令や行政課題を踏まえて、育てたい子ども像が明らかになっているか。

### ②学校の重点内容項目を明確にすること

道徳教育の重点ポイントが道徳のどの内容に関わるのかを明らかにし、それぞれの内容を確認して、学校の教育活動全体でどのような指導をするかが明確になっているか。

### ③重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期を明確にすること

総則の第4 3(1)に「道徳教育の全体計画の作成に当たっては、(中略)3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。」と記されていることから、今までの全体計画の各教科における指導の方針に指導の内容や時期を加えた「別業(※)」を作成・活用することで、全教職員が道徳科の授業以外における道徳教育も意識して取り組めるようになってきているか。(※ひな型例はセンターHPに掲載中)

### ④道徳の授業を大切にし、確実に実施すること

年間35時間(小1は34時間)、学習内容としての道徳的諸価値を扱い、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習活動を展開し道徳性を養うという道徳科の特質を生かした授業を積み上げているか。



子どもたちが「今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的行為を主体的に選択し、実践するための内面的な資質・能力」(中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について(答申)」)を高められるように指導の改善を図るとともに、すべての教職員で道徳教育について考えましょう。

